



T.Mori

サマーマイルシリーズ

THE CHUKYO KINEN

第72回 中京記念 (GIII)

1着 2着 3着 4着 5着
 本賞 41,000,000円 16,000,000円 10,000,000円 6,200,000円 4,100,000円
 付加賞 504,000円 144,000円 72,000円



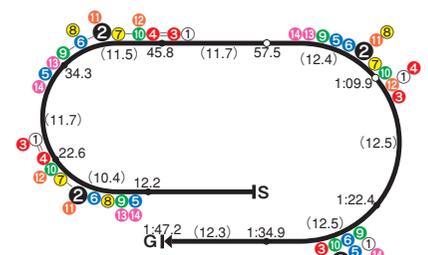
レース映像は
 コチラをご覧ください
 いただけます。

3歳以上、2023.7.22以降2024.7.14まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
 負担重量 ハンデキャップ

2024.7.21 小倉 晴・良 芝1800m (国際 特種)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	②	アルナシーム	牡 5	57	横山典弘	1:47.2	7-7-7-4	36.4	440(±0)	8.2⑤	橋口慎介(栗東)	110
2	⑥	エビファンシー	牡 5	58	杉原誠人	クビ	9-9-10-9	36.2	502(+4)	4.6②	宮田敬介(美浦)	111
3	⑦	エルトンパローズ	牡 4	59	西村淳也	½	6-6-6-2	36.8	516(-4)	4.6①	杉山晴紀(栗東)	112
4	④	ロングラン	騾 6	57	松山弘平	¾	13-14-14-12	35.9	480(±0)	11.5⑥	和田勇介(美浦)	107
5	⑬	ニホンピロキープ	牡 4	56.5	田口貴太	¾	11-12-13-9	36.2	474(-6)	5.1⑬	大橋勇樹(栗東)	
6	⑨	ボーデン	騾 6	54	団野大成	4	11-11-12-12	37.0	482(-8)	17.5⑩	上原佑紀(美浦)	
7	⑤	カテドラル	牡 8	58	幸 英明	1½	13-13-11-9	37.3	490(-4)	62.5⑦	池添 学(栗東)	
8	⑧	タガノパッション	牝 6	53	M.テムーロ	ハナ	10-10-7-4	37.6	478(-8)	37.7⑧	武幸四郎(栗東)	
9	⑩	ソレイユヴィータ	牝 4	50	吉村誠之助	クビ	4-4-5-4	38.2	450(-8)	64.8⑨	杉山晴紀(栗東)	
10	⑪	アナゴサン	牡 6	56	松若風馬	2½	7-7-7-4	38.1	472(-2)	19.4④	牧田和弥(栗東)	
11	④	ワールドリバイバル	牡 6	55	小牧 太	¾	3-3-2-4	39.0	508(-2)	88.8⑪	牧田和弥(栗東)	
12	⑫	セルバーク	牡 5	57	和田電二	¾	2-2-1-2	39.4	434(-4)	14.5⑦	鈴木孝志(栗東)	
13	⑭	セオ	牡 4	57	岩田康誠	½	4-4-2-1	39.3	476(-8)	6.4④	上村洋行(栗東)	
14	①	デーオーシリス	牡 6	55	西塚洸二	1¼	1-1-2-12	39.4	470(+6)	68.1⑭	奥村 豊(栗東)	

単勝②820円(5%) 複勝②230円(5%) ⑥180円(1%) ⑦190円(3%) 枠連②-④1,880円(9%)
 馬連②-⑥1,630円(5%) ワイド②-⑥520円(3%) ②-⑦780円(9%) ⑥-⑦510円(2%)
 馬単②-⑥3,960円(16%) 3連複②-⑥⑦3,570円(5%) 3連単②-⑥⑦22,670円(56%)



通過タイム : 600m 800m 1000m
 34.3 - 45.8 - 57.5 上り : 800m 600m
 49.7 - 37.3

アラカルト

- ・横山典弘騎手は中京記念初勝利。JRA重賞は本年4勝目、通算189勝目。JRA重賞勝利最年長記録を56歳4カ月29日に更新した
- ・橋口慎介調教師は中京記念初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算3勝目
- ・モーリス産駒はJRA重賞通算19勝目
- ・5歳馬の勝利は22年ベレヌスに続く通算19回目

アルナシーム *Al Naseem*

牡 鹿毛 2019.4.14生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・ライオンレースホース(株) 栗東・橋口慎介厩舎
馬名意味・海風(アラビア語)。母名より連想

ドバイマジェスティUSA系 F2・S

モーリス 鹿毛 2011	スクリーンヒーロー 鹿毛 2004	グラスワンダーUSA ランニングヒロイン
	メジロフランシス 鹿毛 2001	カーネギーIRE メジロモントレー
ジュベルアリ 鹿毛 2013	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	ドバイマジェスティUSA 黒鹿毛 2005	Essence of Dubai Great Majesty

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA M3×S4 Lyphard S5×M5

INTERVIEW

佐々木淳史 厩舎長(ノーザンファーム空港)

スタッフが心身ともに成長させてくれました

フレームが小さかった馬だけに、成長を促しながら騎乗育成を行いました。それでも運動神経の良さなど、センスのある動きを見せていました。メンタル面の難しさから力を出し切れないレースも続いていましたが、橋口(慎介)厩舎やノーザンファームしがらぎのスタッフが、心身ともに成長させてくれただけでなく、横山(典弘)騎手が最高の騎乗で勝利に導いてくれました。



K. Miura

2頭の内から追い込んだエビファニーの強襲も抑えてゴールに飛び込んだ。函館の新馬戦を勝ち上がった後、東京スポーツ杯2歳S(6着)、朝日杯フューチュリティS(4着)と格上挑戦を続けた本馬はキャリアを重ねながら力をつけ、昨年6月に3勝クラスを卒業昇級3戦目のカシオペアSでオープン初勝利を挙げた。その後も好走を重ねる半面、重賞の舞台では「あとひと押し」を欠く詰めの甘さも目立っていたが、この日はベテランの巧みなリードに心えて実績上位の2頭を撃破。早くから将来を囁き立てられてきたモーリス産駒が5歳の夏に遅咲きの素質を開花させ、念願の勲章を射止めた。

父モーリス

北海道日高町 戸川牧場生産 中央、香18戦11勝(天皇賞(秋)^{G1}、香港C^G、香港マイル^{G1}、チャンピオンズマイル・香^{G1}、安田記念^{G1}、マイルチャンピオンシップ^{G1})、年度代表馬、最優秀短距離馬、特別賞、17年から日、豪で供用〔代表産駒〕ヒトツ Hitotsu(ヴィクトリアダービー・豪^{G1}、オーストラリアンジーニー・豪^{G1}、ATCダービー・豪^{G1})、マズ Mazu(ドゥームベン10000・豪^{G1})、ジャックドル(大阪杯^{G1})、ピクシーナイト(スプリンターズS^{G1})、ジェラルディーナ(エリザベス女王杯^{G1})、ノースブリッジ(アメリカジョッキークラブC^G)、マテンロウスカイ(中山記念^G)、ディヴィーナ(アイルランドトロフィー府中牝馬S^G)、シュトラウス(東京スポーツ杯2歳S^G)、シゲルビシクルビー(フィリーズレビュー^G)、他に重賞勝ち馬多数

母ジュベルアリ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 不出走
ロジマジェスティ(17 牝父エビファネア)中央7戦0勝
ナローパス(18 牝父ハービンジャーGB)地方36戦5勝
アルナシーム 本馬(19 牝父モーリス)中央20戦6勝(中京記念^G、カシオペアS・L、都大路S・L2着、垂水S、瀬戸内海特別、城崎特別)獲得総賞金161,642,000円
ポルトデラメール(22 牝父ナダルUSA)中央1戦1勝 ㊟
(24 牝父リオンディーズ)
※20、23(不受胎)、21(流産)

祖母ドバイマジェスティUSA

北米12勝(BCフィーリー&メアスプリント^{G1}、サラブレッドクラブオブアメリカS^{G2}、ウイニングカラーズS^{G2}3回、フランクリンカウンティS・L、インクレディブルリヴェンジS・L、マディソンS^{G1}2着、アザリアS^{G2}2着、ブレスクアイルダウンスマスタースS^{G2}3着、プリンセスルーニーHG¹3着、ヒューマニタリストS^{G1}3着)、米牝馬チャンピオンズプリンター、10年輸入ジュベルアリ(13 前出)
アルアイン(14 牝父ディープインパクト)中央、香5勝(大阪杯^{G1}、皐月賞^{G1}、毎日杯^G、オールカマー^G2着、京都記念^G2着)、種牡馬
ダノンマジェスティ(15 牝父ディープインパクト)中央4勝(但馬S)
ヒメノカリス(17 牝父ディープインパクト)中央4勝(新春S)
シャフリヤール(18 牝父ディープインパクト)中央、首、北米、英4勝(日本ダービー^{G1}、ドバイシーマクラシック・首^{G1}、毎日杯^G、ジャパンC^{G1}2着、ドバイシーマクラシック・首^{G1}2着、ジャパンC^{G1}3着)㊟

5歳の夏に遅咲きの素質が開花

変則的な開催日割にともない、サマーマイルシリーズの第2戦・中京記念は距離を芝1800mに変更し、4週間の日程で実施された夏の小倉開催の最終日に行われた。同じオッズ(4・6倍)で、2番人気を分けたのは、トップハンデを背負った重賞2勝馬エルトンパロースと、2月の小倉大賞典を鮮やかに差し切ったエビファニー。小倉では負け知らず(3戦3勝)の二ホンピロキーフが2頭に続く存在と目されたものの、それらの前には5番人気のアルナシームが立ちほだかった。最内枠を引いたテオーシリュースと、昨年の覇者セルバークが序盤から熾烈な逃げ争いを繰り広げ、レースはハイペースで進行。エルトンパロースは縦に長く延びた隊列の6番手、アルナシームの横山典弘騎手は直後のインに腰を落ち着ける。エビファニーは2頭から2馬身ほど離れた中団で折り合いに専念。二ホンピロキーフは後方2番手で末脚を温存した。

向正面で主導権は奪い切ったものの、道中の消耗が響いたセルバークの逃げ脚は早々に鈍り、4コーナーで馬群は凝縮。前に迫った好位勢のなから、いち早く仕掛けたエルトンパロースが先頭に躍り出る。しかし馬群の内息を潜めて4コーナーを回り、直線入口で外へ持ち出されたアルナシームはこれを上回る末脚を発揮。懸命に食い下がるエルトンパロースを競り落とし、